

3 北岸用水

吉野川総合開発計画の一環として計画され、進められた国営吉野川北岸水利事業は、昭和四十六年（一九七二）十月に着工以来、約一九年の歳月をかけて完工した。この事業は、早明浦ダムに水源を求め、池田ダムから取水し、幹線水路六九・二キロ、支線水路八二・七キロ、受益面積六七八二ヘクタールの一大プロジェクトであった。

三好町においては、昭和五十三年（一九七八）になって馬木谷右岸の西貝川地区（大字昼間新田）まで幹線水路が完成した。同年六月一日には西貝川の昼間足代揚水機場から通水テストを開始し、着工以来七年目にして北岸用水の水が三好町平坦部の既存水田約二二〇ヘクタールに供給されるようになった。さらに昭和五十七年三月には幹線水路の三好町工区分が完成し、翌年には取水工（池田ダム）から阿波用水までの四一・五キロが幹線水路で結ばれ、昭和五十八年六月六日にその通水式が行われた。現在、町内の水利組合の吉野川からの揚水は、すべて北岸用水の幹線水路からの取水となっている。

また、昭和四十七年（一九七二）十二月には、吉野川北岸土地改良区が設立されている。

4 畑地かんがい事業

吉野川北岸水利事業に付随して県営で畑地帯総合土地改良事業が行われている。この事業の畑地かんがい事業は、西の池から標高約二六〇メートルの吐水槽（大字足代字山神）までポンプアップし、三好町の平坦部一一六・八ヘクタールの畑地・樹園地にかんがい用水を供給する計画であった。送水管の埋設工事などは昭和五十八年（一九八三）度から始まった。一方、畑地かんがい用水は小川谷からの自然流水を利用する計画であったので、昭和五十年から五十三年度にかけて、国営事業で小川谷頭首工（内野ダム）から行営吐水槽までの小川谷支線工事が、昭和五十六年度には西の池のファームポンド（農業用貯水池）としての改修工事（国営）が行われた。昭和六十一年（一九八六）